

安心職場・快適職場・創造職場

東京産業保健推進センター 相談員 古山 善一

健診受診率の低い職場では、管理者が部下の健康管理に関心が薄く、自身も未受診となっているケースが多い。健診受診率をどう高めるかというグループ討議のなかで、人事部長の「そういう、会社のルールを守れない人には、辞めていただくか」との発言をきっかけに、それ以後はその管理者自身が率先して受診するなど、職場全体の受診率も向上したとの報告があり、研修会場は笑いに包まれた。

東京産業保健推進センターでは、「はじめての衛生管理」というタイトルで、衛生管理の現場でぶつかる壁をどう乗り越えるか、法令と実務の両面から検討する講座を設けている。冒頭のテーマ以外にも過重労働対策、メンタルヘルス対策、衛生委員会の活性化、ライン管理者教育、安全衛生配慮義務など、現場の声を取り上げてきた。

さまざまな課題を現場ではどう展開しているのか、法令解説とともに現役の衛生管理者が事例報告する。このスタイルが参加者の共感を得て、反応もよく、受講申込がキャンセル待ちとなることも多い。

産業保健研修の目的を実現しつつ、受講率と受講者満足度をいかに高めるか。課題は多いが、そのことで「気持ちよく働いて、いい仕事をする」職場づくりが少しでも進むことを願い、これからもニーズに対応した工夫をしていこうと思っている。